

### プロスポーツのホームタウン うつのみや

～宇都宮市には、本市をホームタウンとして活動する3つのプロスポーツチーム（栃木SC、リンク栃木ブレックス、宇都宮ブリッツェン）がある。3チームは地域に根差した活動を通して、ファンへ夢や感動を与えると同時に経済活性化、青少年の健全育成等本市に様々な効果をもたらす。～  
⇒ 本市でもファン層拡大のために広報支援、試合開催及び練習環境の向上、職員の派遣等の支援を行っている。

#### ◇栃木SC



2009年からJリーグに参入し悲願のJ1リーグ昇格に向けて、戦っています。スタジアムが一体となる「県民の歌」の合唱は圧巻。



#### ◇リンク栃木ブレックス



栃木・ブレックスのBリーグ初代王者を記念した優勝パレード（商工会議所主催）に対する側面支援及び市長特別賞の贈呈。パレードには、県内外から約3万人のファンが来訪。



#### ◇宇都宮ブリッツェン



国内初の地域密着型の自転車プロロードレースチームで、国内最高峰ツアー「Jプロツアー」に参戦している。毎年10月に開催されるジャパンカップにも参戦。



### 大規模スポーツイベントの誘致・開催

#### ◇ジャパンカップサイクルードレース

アジア最高位の自転車ロードレースを開催。今年でクリテリウム8回目、ロードレース26回目の開催。今年の大会は、台風の影響を受けたもののクリテリウムとロードレースの2日間で約11万8千人が来場。経済効果については、現在試算中。（昨年度の経済効果は約28億円）



#### ◇3x3ワールドツアーうつのみやマスターズ

3人制バスケットボールの世界大会である「3x3（スリーバイスリー）」を開催。これまでに、平成28・29年の2回開催。今年の大会には、2日間で約6万1千人が来場。2日間で約4億円の経済効果。



#### ◇宇都宮シクロクロス

自転車オフロードレースのシクロクロスを開催。平成26年度に、ジャパンカップのプレイベントとして初開催。平成28年度には、関東初となる「全日本シクロクロス選手権」を開催し、前日に開催した一般レースと合わせると2日間で約2万4千人が来場。今年度は、国際自転車競技連合（UCI）公認のレースを開催。



### クラブが行う地域貢献活動

各プロスポーツチームは、試合やレースだけでなく、各種教室や学校訪問事業など、地域に根ざした活動を展開している。

- 『ゆめプロジェクト』（栃木SC）  
選手及びスタッフが小中学校において講話や実技を行い、スポーツを通じて子どもの心身の健全な発展に寄与することを目的として実施
- 『キッズモチベーションプロジェクト』（リンク栃木ブレックス）  
選手やチアリーダーが小中学校において講話や実技を行い、子どもたちのモチベーションを高めることや情操教育を目的として実施
- 『自転車安全教室』（宇都宮ブリッツェン）  
栃木県内の小中学生・未就学児童等を対象に、紙芝居や自転車等を使った交通安全講習を実施



スポーツの多面的な効用を活かした「まちづくり」に寄与する取組

だれもが、いつでも、いつまでも、スポーツを楽しむ 生涯スポーツ社会の実現

◇「ひとり1スポーツ」(=生涯スポーツ社会)の実現に向け、地域におけるスポーツ活動の促進や**スポーツの裾野拡大**、さらには**健康づくり事業との連携強化**が必要であり、地域スポーツクラブ等の**ライフステージに応じた**、スポーツ活動を推進し、スポーツを体験したり、観たりする機会やスポーツ活動の成果を試す場(各種スポーツ大会等)の充実に取り組む。

○地域におけるスポーツ活動の推進

【地域スポーツクラブの設立及び活動の支援】

8つのクラブが市内10地域(39地域中)をカバー

取組状況 総会員数：3,210人(平成28年度実績)

【ニュースポーツの普及促進やスポーツ教室の開催】

用具・物品の貸出や各種スポーツ教室の開催

取組状況 参加者数：49,066人(平成28年度実績)

【宇都宮マラソン大会等の開催】

第31回大会を開催予定(平成29年11月19日)

取組状況 参加予定者数5,314人



<ニュースポーツ大会の様子>

◇プロスポーツチームという地域の貴重な資源との連携・活用を促進するとともに、市内のスポーツ施設の配置の適正化や長寿命化による活動環境の確保・充実に必要であることから、施設配置や老朽化の状況などを勘案しながら、施設の機能向上が図れるよう、計画的かつ着実な施設整備・改修を行う。

○スポーツ施設や場の充実

【トップレベルのスポーツに対応したスポーツ施設の整備】

◇宇都宮市体育館/ブレックスアリーナ(プロバスケットボール会場) ◇河内総合運動公園サッカー場(プロサッカー練習場)

◇宇都宮清原球場(平成29年6月30日 巨人対横浜戦を開催)等の拠点施設の管理・改修

【地域におけるスポーツの実施に対応した施設等の整備・新設】

◇宮原運動公園再整備事業・・・施設の老朽化及び社会環境やニーズの変化に対応し、設備を改築、一部廃止し、新規機能を導入

◇北西部地域への体育施設整備事業・・・体育施設の市内全域における配置の適正化のため体育館及び付帯機能(運動広場)を新設

◇清原体育館・・・うつのみやふれあいスポーツ大会の実施(平成29年 参加人数:437人)



<うつのみや ふれあいスポーツ大会>

◇多様化するニーズに対応できる指導者やスポーツ団体が活躍できるよう、**スポーツ指導者の育成・活用**や**スポーツ団体の活動支援**に取り組む。

○スポーツ指導者の育成・活用

スポーツ推進委員や少年スポーツ指導員の育成・支援

取組状況 スポーツ指導者研修の受講者数：688人(平成28年度実績)

○スポーツ団体の活動支援

市体育協会やスポーツ振興財団、プロスポーツチームの活動を支援するとともに、各団体と連携し地域のスポーツ活動を促進



<スポーツ振興財団の自主事業>

○健康ポイント事業

18歳以上の市民が、「歩く・自転車に乗る」「体重等の健康管理」「健診の受診」等の活動を実施し、その**活動実績**に応じた**ポイント**を付与することで、健康活動の促進に取り組む。

取組状況 平成30年4月より本格実施予定

○健康遊具の整備

子どもからお年寄りまで幅広く利用できるように、地元自治会や公園愛護会などの意見を伺いながら、公園の新設や遊具の更新に合わせ、楽しく利用できる**健康遊具**の計画的な整備を行っている。

取組状況 81公園257基(H29.3.31 現在)

○老人クラブ

**仲間づくりを通して生きがいと健康づくり**を行うとともに、知識や経験を活かし、地域を豊かにする社会活動に取り組む。

老人クラブ数 325クラブ(平成28年度実績)

健康生きがい事業 グラウンドゴルフ大会、ペタンク大会、地区歩け歩け大会 等を実施



<健康遊具(踏み台ストレッチ)>

みんなで健康づくりの推進